科目名	専門演習Ⅰ　　Seminar　Ⅰ						
科目担当者	上野 純也　　UENO Junya						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	専門演習Ⅰでは、法律文献の収集や読解、論理的な文章の記述、法律論文の執筆方法といった法学に必要な基礎能力の修得・習熟を目指すとともに、自分なりに分析した考えを他者に説得力をもって伝える発表能力・プレゼンテーション能力の修得を目指します。そのため、教員が主体となって知識や思考能力を教える講義科目とは異なり、学生一人ひとりが主体となって報告・議論に取り組んでもらいます。 報告内容や担当・報告時期など、演習の詳細についてはゼミ生と話し合った上で、臨機応変に対応する予定です。						
授業の到達目標	①資料の収集、読解、整理・要約する能力を修得する。 ②資料をまとめ、その内容理解に加えて、自分なりに評価する分析能力を修得する。 ③資料の分析・評価をもとに報告資料を作成し、他者に説得的に伝えることのできるプレゼンテーション能力を修得する。 ④報告に対する批判的評価を加える批判的思考を身につけ、ディスカッションを通じて問題を解決に導く問題解決能力を修得する。						

授業計画・内容

1	イントロダクション・ゼミの方針決め	16	ゼミ報告計画
2	法律文献の集め方・読み方 1	17	リーガル・ライティング 1
3	法律文献の集め方・読み方 2	18	リーガル・ライティング 2
4	判例研究 1	19	判例研究 9
5	判例研究 2	20	判例研究 10
6	判例研究 3	21	判例研究 11
7	判例研究 4	22	判例研究 12
8	刑事司法と現代社会 1	23	刑事司法と現代社会 3
9	刑事司法と現代社会 2	24	刑事司法と現代社会 4
10	文章論理学演習 1	25	判例研究 13
11	文章論理学演習 2	26	判例研究 14
12	判例研究 5	27	ゼミ報告 1
13	判例研究 6	28	ゼミ報告 2
14	判例研究 7	29	ゼミ報告 3
15	判例研究 8	30	ゼミ報告 4

授業外学修 (事前学修)	担当する判例や報告素材について、自身で資料を収集・作成する。他のゼミ生報告への批判ができるよう、事前調査を行う（毎週 3 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	報告に対するコメント及びディスカッションの内容を振り返り、自身の報告や見解をブラッシュアップする。（毎週 1 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
ゼミ報告及び演習への参加状況・態度の総合的評価	100%	①、②、③、④

成績評価基準

秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合
優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合
良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合
可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合
不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
　・課題に答えて提出していること

教科書	各テーマに応じて、演習内で適宜指示をします。
参考文献	佐伯仁志・橋爪隆編『刑法判例百選Ⅰ総論〔第 8 版〕』（有斐閣、2020 年）、井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス〔第 2 版〕』（商事法務、2023 年）
その他	他のゼミ生の報告を真摯に聞くとともに、ディスカッションに積極的に参加することを望みます。